

1

シスメックス株式会社

各社の考え方

□ 算定を行う背景・目的

- 当社は、グローバルに事業を展開する企業として、優先的に取り組むCSRマテリアリティの一つに、深刻化する地球環境問題への対応を特定し、長期環境目標(シスメックス・エコビジョン2020)を策定して、製品ライフサイクルにおける環境配慮と事業所活動における環境負荷低減に取り組んでいます。
- サプライチェーンCO₂排出量算定の目的は、当社グループのバリューチェーンの中で、GHG Scope 1、Scope 2、及び、Scope 3 の各カテゴリの排出量の影響規模を把握することにより、優先度の高い対象を明確にして、環境活動に取り組むことです。

□ 算定結果の活用方法

- 算定結果は、当社グループの長期環境目標の見直しにおいて、取り組むべき対象を特定するために活用します。

□ 算定のメリット

- 事業活動のCO₂排出量を算定する対象を認識して、削減機会を把握できます。
- 事業活動と矛盾しない排出量削減のための目標と取組み施策を優先順位をつけて、決定できます。

□ 社内の算定体制

- 当社グループは、当社と連結子会社65社及び関連会社2社で構成されています。
- 算定対象範囲は、製造(工場)機能会社、地域統括会社、および、その他の売上高上位の会社で、グループ売上高の80%以上を目指していますが、今回の算定範囲は、当社単体としました。
- Scope 1、2、及びカテゴリ4については、環境データ管理システムを通して収集・集計します。それ以外は、関係部門から定期的な関連データの報告を受けて算定します。

2

シスメックス株式会社

	各社の考え方
<p>□ サプライチェーン排出量の削減に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 販売された製品が使用される時のCO₂排出量削減に向けて、影響の大きい商品郡の製品の電気使用量の低減に取り組みます。 ● 製品の出荷物流におけるCO₂排出量の削減に取り組みます。 ● 主要事業所(工場、地域統括会社、売上比率の高い会社)の事業活動におけるCO₂排出量の削減に取り組みます。
<p>□ サプライチェーン排出量算定の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 算定対象組織については、今回は、当社単体となりましたが、今後の算定は、製造(工場)機能会社、地域統括会社、および、その他の売上高上位会社を含めて、グループ売上高の80%以上に対象範囲を拡大していくことが今後の課題です。 ● カテゴリ1、2、3、5、6、7の算定に使用した活動量は、CO₂排出量削減のために取り組む対象としては容易ではなく、もっと直接的な要因となる活動量の把握が、今後の課題です。 ● カテゴリ4における調達品の輸送時の排出量算定、及び、カテゴリ9における出荷先の販売代理店等から最終顧客までの輸送時の排出量算定は、今後の課題です。
<p>□ その他(任意)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境活動は、CO₂排出量削減以外に、廃棄物リサイクル率の向上、水使用量の削減、脱動物原料の開発に取り組んでいます。

3 シスメックス株式会社

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 前年度(2016年度)の品種別の製品・サービスの原材料調達金額(円)	● 購入金額当りの排出原単位 (*1: [5]産業関連表ベースの排出原単位)
カテゴリ2「資本財」	● 前年度(2016年度)の固定資産の購入金額	● 購入金額当りの排出原単位 (*1: [6]資本材の価格当たり排出原単位)
カテゴリ3「Scope1、2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● 前年度(2016年度)のエネルギー種別ごとの消費量	● エネルギー消費量当りの排出原単位 (①燃料:*2、②電力:*1: [7]電気・熱使用量当たりの排出原単位)
カテゴリ4「輸送、配送(上流)」	● 前年度(2016年度)の製品出荷重量及び出荷先までの距離(輸送トンキロ)	● 輸送手段別の排出原単位 (*3: 「1.1.5 従来トンキロ法」)
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 前年度(2016年度)の廃棄物種別、処理方法別(焼却・埋立・リサイクル)の排出重量	● 廃棄物種類・処理方法別排出原単位 (*1: [8]、廃棄物種類、処理(焼却・埋立・リサイクル)、輸送段階を含む)
カテゴリ6「出張」	● 前年度(2016年度)の平均就業人員数(社用車の燃料消費はScope1)	● 従業員当たりの排出原単位 (*1: [13])
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 前年度(2016年度)の平均就業人員数及び平均就業日数	● 従業員数・勤務日数当り排出原単位 (*1: [14]、*4)

*1: サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(Ver.2.4)

*2: カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム基本データベースVer.1.01(国内データ)

*3: ロジスティクス分野におけるCO2排出量算定方法 共同ガイドラインVer.3.1

*4: 都市区分は、「勤務形態別都市区分別従業員数・勤務日数当たり排出原単位」より

4 シスメックス株式会社

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ8「リース資産(上流)」	● 該当活動なし	● ー
カテゴリ9「輸送、配送(下流)」	● 販売代理店等における活動で比率少として除外	● ー
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 該当活動なし	● ー
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 前年度(2016年度)の機器製品別の出荷数、想定生涯使用時間、及び使用単位時間当たりの電力消費量	● 電気使用量当り排出原単位 (国内: *5、海外: *6)
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 前年度(2016年度)の機器製品の出荷数及び重量 ● 前年度(2016年度)の試薬製品の生産数及び容器・梱包材の種類別重量、試薬重量	● 廃棄物種類・処理方法別排出原単位(*1: [8]、廃棄物種類、処理(焼却・埋立・リサイクル)、輸送段階を含む)
カテゴリ13「リース資産(下流)」	● 該当活動なし	● ー
カテゴリ14「フランチャイズ」	● 該当活動なし	● ー
カテゴリ15「投資」	● 該当活動なし	● ー
「その他」	● 該当活動なし	● ー

*1: サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(Ver.2.4)

*5: 電気事業者別排出係数平成27年度実績(平成29年7月26日官報掲載)

*6: 平成26年度電力系統関連設備形成等調査事業(電気事業者別CO2排出係数の検討に係る基礎調査)報告書(経済産業省2015年2月)

5

シスメックス株式会社

算定結果

- サプライチェーンCO2排出量 2016年度実績 (総排出量 = 387,090 t-CO₂eq)

No.	分類	内容	構成比
1	Scope1	CO ₂ 直接排出(燃料の燃焼等)	0.52%
2	Scope2	電気・熱・蒸気の使用に伴う間 接排出(供給元のCO ₂ 排出等)	2.18%
3	Scope3	その他の事業活動に伴うCO ₂ 排 出	97.30%
①	カテゴリ1	購入した製品・サービス	32.06%
②	カテゴリ2	資本財	1.28%
③	カテゴリ3	Scope1、2に含まれない燃料及 びエネルギー関連活動	0.24%
④	カテゴリ4	輸送、配送(上流)	5.45%
⑤	カテゴリ5	事業から出る廃棄物	0.03%
⑥	カテゴリ6	従業員の出張	0.09%
⑦	カテゴリ7	従業員の通勤	0.19%
⑪	カテゴリ11	販売した製品の使用	57.15%
⑫	カテゴリ12	販売した製品の廃棄	0.82%
合計			100.0%

